

SHIRO



4 582757 639444

# REPORT

2024

January 2025

2 CRAFTSMANSHIP

あらためて伝えたい  
私たちの“ものづくり”  
5つの視点

6 TRAVEL, PEOPLE,  
BOOKS

旅をする、人に会う、本を読む  
ある時、すべてがつながる

10 FROM THE FIELD

変わったこと、変わらないこと  
日々、自然と向き合う  
9人の視点





## あらためて伝えたい SHIROのものづくりのこだわり 自分たちの感覚を信じ、 自然に根ざし、未来をつくる

SHIROはものづくりのブランドです。  
日々、化粧品の原料となる素材と向き合い、  
自分たちが毎日使いたいものをつくり続け、  
独自の「つくり方」を育んできました。  
決して譲れない5つのポイントが  
SHIROらしさを形づくっています。

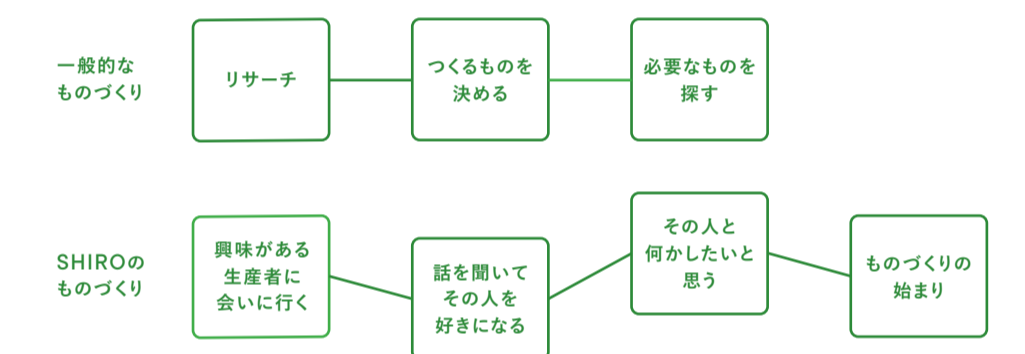
Photographs: MASAMI NARUO, KEITA SAWA, SHIN SASAKI  
Text: SHINTARO KUZUHARA

## 1 私たち自身が 本当に使いたいと思えるもの だけをつくる

SHIROの製品は、スキンケアやコスメティック、フレグランスなど、皆さんの「暮らし」に寄り添うものです。だから私たちは「自分たちが毎日使いたいと思えるだろうか?」という自問自答を欠かしません。素材、加工方法、デザイン、そして使用後の容器はどうか…。あらゆる点において、自分たちが使いたいかどうか、家族や大切な人に使ってほしいと思えるかどうかを判断基準です。もちろん独りよがりな製品をつくらうということではありません。私たちが毎日使いたい製品は、お客様も必要としているものだという確信があるのです。

世の中にある製品の多くは「どんなものなら売れるか?」を起点に製品開発が始まります。「売る」ことをゴールに、世の中をリサーチし、流行っているものをリストアップし、何をつくるかを決定する。価格の相場を見極めて導き出された原価の範囲内で製品開発を進めます。暮らしというよりも、会議室から製品が生まれているという一面もあるかもしれません。SHIROの前身であるLAUREL時代には、OEM製造の契約を結び他社の製品を製造していました。当時製造していた、販売価格から逆算して原価が決められる化粧品は、自分たちが毎日使いたいと思えるものではなかったのです。

そこから私たちは別の道を選びました。ものづくりにおいてはマーケティングをせず、自分たちの「使いたいという感覚」を信じてみたのです。日々素材と向き合い、ただひたすらシンプルに、正直に。私たち自身が本当に使いたいと思えるものだけをつくる。その選択が、今のSHIROにつながっています。



## 2 旅をして出会った人や素材から インスピレーションを得る

意外に思われるかもしれませんが、SHIROのものづくりを語るうえで「旅」は欠かせない要素のひとつです。旅先で出会った素材や、現地で得たインスピレーションが、製品を生み出す原動力になっています。国内外で触れたさまざまな自然や体験、大切な方たちとの出会いがなければ、SHIROは存在していないのです。

ブランドプロデューサーの今井浩恵は旅からアイデアや知見を得ることが多く、頻りに世界に向かっています。その土地のキーパーソンや魅力的な活動を下調べし、1つだけアポを入れます。1人でも魅力的な人に出会うことができれば大丈夫。その人の周囲には、同じような空気をまとった人たちが集まっていて、素晴らしいコミュニティが広がっているからです。

こうした出会いがすぐに製品化に辿り着くとは限りませんが、製品化までに時間がかかることも珍しくありません。しかし、北海道のごめ昆布やラワンぶき、広島県のホーリーバジルも、沖縄県のタマヌも然り、多くの人気製品が旅と人との出会いから生まれました。

製品をつくるだけなら、インターネットで原料をリサーチして、電話やメールで仕入れることだってできます。そうすれば最短距離で製品をつくれるでしょう。しかし、SHIROは売るためだけにものづくりをしているわけではありません。自分たちが使いたいと思えるか、生産者の方々の幸せにつながっているか、地球環境に良い循環を生み出せるか、その製品をつくることで社会は良くなるのか。さまざまな目的を達成するためには、回り道をしながらじっくり曲線的なものづくりをすることが大切だと、私たちは経験的に知っています。

### 3 過程を公開し、みんなで考える。 「ひらく」という基本姿勢

SHIROはあらゆることを「ひらく」ようにしています。例えば自社工場である「みんなの工場」には、工場見学の際によく目にするような見学通路がありません。来場者がつくりぐスペースと工場の製造ラインはガラスで仕切られているだけだから、SHIROのものづくりをすべてご覧いただけます。普段見ることのできないものづくりの風景が日常となり、子どもたちがつくことに興味を持ったり、ものを大切に作る気持ちが育まれることを願っています。

2024年8月にみんなの工場で開催したファッションショーでは、バックステージを隠さず、スタイリスト、ヘアメイクアップアーティスト、モデル、照明、音響、演出家など、さまざまなプロフェッショナルたちが本気でショーをつくりあげる姿の一部始終を、リハーサルまでも公開しました。新しいポッドキャスト番組「あいだのハナシ」は、2026年秋のリニューアルオープンに向けてまさに進行中の砂川パークホテル・リニューアルプロジェクトを題材に、さまざまな社会課題をビジネスで解決していくプロセスを包み隠さずお伝えする現在進行形のドキュメンタリーです。

また、SHIROではいただいたクレームと私たちの対応を包み隠さずすべて公開しています。「これは言わなくてもいいだろう」と自分たちにとって都合のいい選択をすることは、お客様だけではなく「自分たちが毎日使いたいものをつくる」ことを追求してきたこれまでのSHIROを否定する行為だと考えています。あらゆることを「ひらく」。それは後ろめたいことがないという自信の現れでもあります。ものづくりに真摯な会社であるための約束です。



### 4 自然の恵みを最大限に 引き出すために 粘り強くチャレンジする

海、畑、森。SHIROが生まれた北海道は、大自然に育まれた豊かな地域です。SHIROのものづくりの原点である「がごめ昆布美容液」は、「北海道で採れる美味しい食材は、化粧品の原材料としても価値があるのではないか」という今井のひらめきから誕生しました。それ以来、SHIROではかけがえない自然が持つ可能性を最大限に活かしてきました。

今井は20代の頃から、野菜をスーパーで買うことはほとんどありませんでした。産地から直接送られてくる旬の野菜は、形は不揃いだったりしますが、かじってみると強い美味しさが溢れ出します。味や食感はもちろん、みなぎる活力が違うのです。きっと肌につける化粧品も、身体に取り入れる食べ物と同じように、フレッシュな方がいいに違いない。素材がもっとも輝く特別な瞬間を製品に詰め込んだのが「旬シリーズ」です。

北海道砂川市にあるみんなの工場の開発室には、日本各地からさまざまな自然素材が届きます。生のまま蒸留してみたり、エキスを抽出してみたり、乾燥させて成分を濃縮してみたりと、シンプルな処方でも素材の可能性を引き出す方法を探っています。がごめ昆布のように製品化して皆さんにお届けできるのはごく一部、その裏には製品化に至らなかった素材がたくさんあるのです。バツと思いつく野菜は、ほとんど試していると言っても過言ではありません。

こうして実験を繰り返せるのは、自社工場を有し、企画、開発、製造、販売、店舗運営までを一貫して自社で行っているから。自分たちで探し、考え、試す。生産者の方々の想いをお預かりし、素材の力を最大限引き出す努力を重ねることで、皆さんのお手元に製品をお届けしています。

### 5 「捨てない」「新たにつくらない」 過去を活かし、未来をつくる

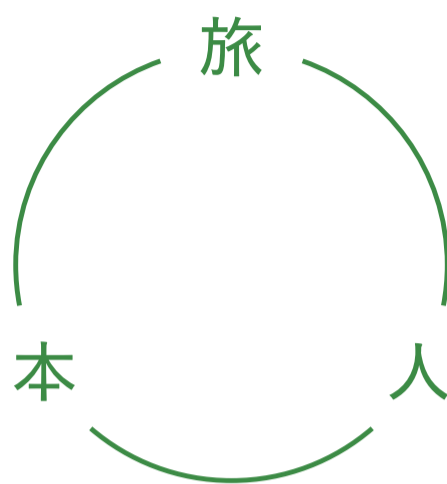
2024年、SHIROが生まれて15周年。私たちSHIROは、すべての資源の価値を見つめ直し、本質的な循環のために廃棄物ゼロを目指す「SHIRO 15年目の宣言」を表明しました。

栄養をたっぷり含んでいるにも関わらず、捨てられてしまっていた自然素材から製品を誕生させたように、製品のリニューアルにより工場の倉庫で眠っていた香料や容器から、新しいものづくりに挑戦した「ZERO COLLECTION FRAGRANCE」。使用済みガラス容器を回収し、それらの容器を繰り返し使い続ける「リユース」ための実証試験を行った「SHIRO リユースプロジェクト」。これまでの什器や床、世の中で不要となったものを活かしたお店づくり。パッケージレスや香りのお試しをムエットから札幌軟石へ変更するなどの店頭での工夫。製品をつくり、お届けし、お客様が製品を使い終わるまでのすべての工程において、廃棄物ゼロを目指しています。そのために、ものづくりのあらゆる工程を見直しています。

真新しいものをゼロからつくるわけではなく、すでにあるものや過去につくったものからバトンを受け取る。そして、SHIROらしいクリエイティビティでその可能性を何倍にも広げる。こうしたことの繰り返しが、SHIROの信頼を築いてきました。



# 旅をする。人に会う。本を読む。 ある時、すべてがつながり、 何かが生まれる。そんな経験を SHIROのパートナーに聞きました。



自分の居場所に閉じこもっていても、アイデアはなかなか降りてこないものです。もちろん、SHIROのものづくりにも、旅、人、本が欠かせません。ここでは、SHIROや今井にさまざまな気づきを与えてくれる「人」に、旅・人・本から何かが生まれた瞬間を聞きました。



**今井 淳生・入江 可子**  
アライリエアーキテクト  
建築家

### 知っている 思い込んでいるものの中に 新鮮さを見ること

一昨年から年末年始のお休みに、旅をしています。先日、両親と姉夫婦と共にスペインのビルバオに行ってきました。目的の1つは、学生の時に一度見たグッゲンハイム美術館をもう一度見ることに。もちろん建築そのものから多くの刺激を受け取ったのですが、思いもよらない発見があったのは、両親の美術館内での過ごし方でした。視力が弱まり、歩ききれない通路を少し慎重に歩く。私には色の違いに見えるものが、明暗に見えて段があるように見える。普段はとくに美術鑑賞などしない父が、ある彫刻作

品を前に足取り軽くなる。そろそろ座りたいと泳ぐ視線に丁度いい所にあるベンチ。多種多様な人々に対し、ユニバーサルなデザインなんてないとも思う一方で、こうした些細な観察を通じて、どんな人がどんな時にどんな行動をする？という想像力の幅を最大限広げることが、具体的な“みんな”のための設計に繋がると信じています。よく知った人と見知らぬ場所に行く、意外と新鮮な風景そのものより、日常の見知ったものの中に発見があるかもしれません。

アライリエアーキテクト | 今井 淳生・入江 可子  
シーラカンスアンドアソシエイツを経て、有井が2015年アライリエアーキテクトを設立。入江は2017年に参画。SHIROのみんなの工場の設計を担当。現在、砂川パークホテルのリニューアルを進行中。



ビルバオグッゲンハイム美術館の「コマ」同じ空間の中で、過ごす人それぞれの時間、興味、振舞いがある。

### 旅から生まれたバトン

2015年、イタリアへ旅に出た。批評家の多木陽介さんが街を耕す人たちを案内する「移動教室」に参加するためだった。毎日、身体一杯にもつくりのエネルギーを吸収して息が上がるような日々を楽しんでいたが、その中でもずっと忘れられない時間があった。移動中の列車で、僕は、デザイナーのアクセル・カスティリオーニさんの名言集を握りしめ、多木さんに一ひとつ説明をしていたとき多くの対話の時間をもらった。多木さんは名言に対して、現代的な解釈を付け加えて話をし

てくれ、目が覚めるような経験で「移動教室」が目の前に立ち上がったことに感動を覚えたのだった。そこから、9年の時を経て、僕は友人たちと出版社を立ち上げ、多木さんと一緒にあの時の感動を一冊の本にした。その本が『失われた創造力へ』である。旅は時間をつなぎ合わせて、いつかの未来をつくる。次はこの本が誰かのバトンになるのだろうか。

原田 祐馬  
1979年大阪生まれ。デザイナー。「ともに考え、ともにつくる」を大切に、対話と実験を繰り返すデザインを実践。愛犬の名前はワカメ。SHIROが手がける「砂川パークホテル」リニューアルメンバーの一人。



**原田 祐馬**  
UMA/design farm代表  
とく社共同代表

失われた創造力へ  
アクセル・カスティリオーニ  
エンソオマリーの言葉  
多木陽介(著) / へつ社



**山川 咲**  
CRAZY WEDDING創設者  
起業家

### それは日常とは遠くない、 1泊2日の千葉の館山での ショートトリップだった。

私は誰なんだろうと、時々思う。大人になって肩書きが乱立して、言葉にするほど自分自身のアイデンティティが見えなくなった。20代で起業した頃、昼夜なく隣で働いていたかつての後輩を乗せて、夢中でおしゃべりをしながら私は車を走らせていた。海に面したサウナに入って、電気もつけずにオレンジから濃紺に移りゆく空を2人でいつまでも見つめていた。「これから私はどうやって生きていくのだろう」と、20代のあの時にフープしたみたいに、ふと思

う。あの頃、私たちに何もなく、夢だけがぼんやりとあった。何者でもなくて、だから無敵で、未来がとてつもなく大きかった。今の自分はどうかだろう。僅かに育ってしまった世間体。手に入れてきたもの。周囲の期待。静かに自分に馴染んでしまっているそれらを、濃紺の海にそっと手放してみる。不意に、大好きな文章をもっと、書こうと思った。失うものは、40歳の今だって何もないんだから。

山川 咲  
1983年東京生まれ。CRAZY WEDDING創設者。学校や企業の理事/ボドメンバーをしながら、個人としてnote「文庫本的、やまかわさき」を執筆中。SHIROリユースプロジェクトのパートナー。



目の前の海で夕陽が沈む、SANU 2nd Home館山の窓からの景色。日が暮れて真っ暗になるまで見つめていた海。



2016年、イギリスケント州北岸のテムズ川河口の島、ジェビー島での1枚。一人で撮影のロケハンをしていた時に声をかけてくれた少年たちを撮らせてもらった。二人のイギリスアクセントとヘアスタイルが印象的だった。

### 旅先で出会う 人とカルチャーと 案とヒント

私の職業はフォトグラファー。主にファッション、ビューティー、ポートレート撮影など、クライアントから仕事依頼を受けた後、撮影準備の資料集め、ロケハン、撮影、プリントチェック、そしてようやく皆さまの目に届くポスターや誌面の撮影をしている、コマースフォトグラファーになります。実は、撮影だけが仕事では無いのです。撮影オファーを受けるまでのプロセスがいわば本業ともいえます。そのプロセスとは何か。自分がどこに行き、何をみて誰に会って、何を感じ、何を得るか、自分作りが私の写真にとって大きな影響力を与えています。その影響力の源は私の場合、『旅』になるで

しょう。自分が知らない土地に行き、自分と同じ興味がある場所に行ってみる事が想像力のインプットの近道だと思います。正直な所、国内、国外関係ないです。旅先のGoogle Mapsを開き、book store / organic store / natural wine bar / record store / cafe / を検索し、気になるお店にピンを刺していく。そうすると、ピンが集まっているエリアが限られてきます。そこがmy spot。自分が興味のあるお店に行き、そのエリアをうろうろする。そこで出会った方に近くのギャラリー情報やレストラン情報、いろんな事を聞き出して、その地のカルチャー感を感じることが私にとって自分作りの源になります。

成尾和見  
アシスタントを経て2012年独立後、渡英。2017年に帰国後、日本で活動を開始。SHIROの撮影に携わる。国内外問わず、撮影を続けている。



**成尾 和見**  
フォトグラファー

### TSUBAKIの仕事着

2024年、TSUBAKIの仕事着を作りました。仕事着とは身を守る道具であり、アイデンティティを示すもの。ものが溢れた現代でなぜこの衣を纏うのか。2020年日本民藝館での展示「アイヌの美しき手仕事」で目にした道具たちに、私は心奪われました。纏った人の歴史や時間が刻まれていく仕事着にしたいと、世界の民族衣装にも関心を寄せ、ものづくりをしている大脇千加子さん（出会いは2020年）に制作を依頼。対話から生まれた衣はその後奄美大島の染色家・金井志人さんに渡り藍で染め上げられました。袖を通し

ひと夏が過ぎた頃、くたくたになった衣を持って奄美大島を訪れた私たちはスタッフ全員の衣を染め直す機会を頂きました。初めての染色体験。日頃の仕事で鍛えた体力を活かし、ぎゅっと力を込めて何度も絞る姿に私の求めるモノとの関わり合い方を確認しました。身を守ってくれている衣に感謝してこの先何度も染め直し長く着続けることが楽しみであり誇りです。

宮原 圭史・山下 郁子  
BOTANICAL ARRANGEMENTS  
TSUBAKI 主宰



**宮原 圭史・山下 郁子**  
BOTANICAL ARRANGEMENTS  
TSUBAKI 主宰



写真は奄美大島の金井芸工にて染色を体験させていただいた時のもの。



インドのパラナシにて撮影したガンジス川。この後、頭痛と腹痛を起こしているので、ガンジス川で沐浴に挑戦したのが原因だと思われまふ。

### 旅先での経験は、 ずっと後から影響する。 インドで受けた親切が、 今の仕事に導いてくれた

旅先での経験は、時間が経過してから人生に影響を与え始めるもの。それが、旅と人生の醍醐味です。20歳の時、初めて海外を旅した国がインドでした。貧乏旅行で食あたりを起こしたのか、ヒンドゥー教の聖地・バラナシで寝込んでしまいました。安宿にはさまざまな国のバックパッカーが集います。僕の不振を聞きつけて、とある韓国人の青年が薬を届けてくれました。「お母さんが持たせてくれたんだ。

体を壊したら、飲みなさいって」。きつと韓国の青年も、旅のお守りとして薬を持っておきたかったはず。それでも、惜しみなく僕に渡してくれました。昨春からポッドキャスト「TABI SHIRO」がスタートし、今年は長い旅に出て文章を書く予定です。その大元を辿ると、あのインドで受けた親切にたどり着くように思います。あの時、旅を嫌にならなかったから、今の自分がある。15年越しに、あの韓国の青年に感謝を伝えたくくなりました。

泉 秀一  
1990年生まれ。NewsPicks編集長を経て独立。著書に「世襲と経営 サントリー・佐治信忠の信念」。ポッドキャスト「TABI SHIRO」「あいだのハナシ」のパーソナリティ。



**泉 秀一**  
ノンフィクションライター

### 子どもと一緒に旅すると 意外なものが見えてくる

タイ北部にあるチェンマイに通い続けてかれこれ10年が経ちます。実はこのSHIRO PAPERもまさにそこでデザインしています。きっかけは妻の仕事でした。幼い頃から一緒に旅をしている息子にとっては、友だちがいて、成長を見守ってくれる大人たちがいて、行きつけの店があり、いつのまにか母の実家のような存在に。デザイナーという職業柄、都会的な文化にはかり目が行きがちだった僕にとって、チェンマイは、庭や畑や森に興味を持つきっかけになった街。そこで見たもの、聞いたことが、自然に近いところでデザインに関

わる今につながっています。チェンマイを訪れると時間がゆっくりと流れます。そんな時に思い出すのは、ミヒャエル・エンデの「モモ」。時間泥棒たちに盗まれた時間を取り返すために戦う小さな女の子のお話。僕の頭の中では、チェンマイとモモがつながっています。大人になると難解な本を読んで賢くなった気になったりしますが、大切なことは子どもにもわかる言葉で書かれていたりする気がします。

佐々木 信  
1974年北海道生まれ。デザイナー。子どもと子ども心を忘れない大人に向けて毎月「庭しんぶん」を発行。SHIRO PAPERの編集、デザインを手掛ける。



**佐々木 信**  
デザイナー / 3KG 代表



時間だらけだとぬすまれた時間をふしぎな物語としてくぐりこんだ子猫の物語  
大島かおり(監) / ちくま出版



# それぞれが感じる自然と仕事 変わったこと、変わらないこと

夏は暑くて、春と秋は短い。  
若者は減り、お年寄りが増えていく。  
人々は地方から都市へと移住する。  
生活しているだけで感じる、気候や社会の変化。  
では、日々、自然と向き合い仕事をしている皆さんは、  
2024年にどんな変化を実感したのでしょうか。  
SHIROに関わりのある  
9人の方々にお話を聞きました。

Text: SHINTARO KUZUHARA



## HERB



### ハーブ / 千葉県鴨川市

#### 自然を丁寧に観察する それが何よりも大事

気候変動の影響かどうかはよくわからないのですが、ここ数年は状況が毎年違うんです。2024年はなんといっても水不足が辛かったです。7月なんて一度も雨が降らなかったんです。それに夏は暑くて秋がない。南房総は、夏は涼しい海風が吹くので都心と比べ気温が数度低く、お店でも冷房がいらないくらいだったのですが、今はもう無理ですね。光熱費が上がっています。

とはいえ、臨機応変に対応することが大事だと思っていますし、栽培に関して冷暖房の使用はしません。育たなくなった植物はもちろんありますが、逆に今まで日本で育たなかった植物を育てるチャンスでもあるし、収穫期が延びれば収穫量が増えます。

井上 隆太郎 / 苗目  
千葉県鴨川市でハーブとエディブルフラワーの生産を中心に、環境負荷の少ない農業に取り組む「苗目」代表。2023年にはコミュニティファーム内に「Inaeme farmers stand」をオープン。直売所、カフェ、食と農に特化したイベントも行う。



苗目 金木犀シロップ

大切なのは、自然をよく観察すること。苗目の周りに咲く金木犀は、この10年間、1年の例外を除いて、毎年同じ日に花が咲いています。気温は変化していますが、昔から変わることのない日照時間などが開花のタイミングを決めているのかもしれませんが。カレンダーを見るだけでなく、自然をよく観察して、作付けや収穫の合図を受け取る必要があるんじゃないかと思うんです。

こういう状況も変わってくると、慣行農法のおじいちゃんやおばあちゃんは、あまりにも大変で農家をやめてしまうんです。そういった耕作放棄地を就農したい若い子に貸して、苗目でアルバイトしてもらいながら、作物の育て方や販売をサポートしていくと考えています。農地を若者に引き継げるし、移住者も増やせる。こんな時代だからこそ、コミュニティを育てて、この場所をもっとおもしろくしていきたいですね。

## KOMBU

### 昆布 / 北海道広尾町

#### 減るものではなく、 増えるもの・生まれるものを 大切に

昆布の産地では、昆布が取れなくなっていると聞きますが、私たちが拠点にしている広尾町の昆布はまだしばらく取れ続けるだろうと考えています。近隣の海域の平均水温から逆算するとこの10年の間は耐えることができると予測していますが、その間に地域的・環境的側面からの対策が必須だと考えています。しかし、広尾町でも、取れる魚は変わってきています。オオズワイガニとかジキマグロが取れるようになってきています。地球温暖化

によって海水温が上昇し、魚が北上していますから。私は「資源を活かす」ことに興味があります。昆布に着目したのは、広尾町の海岸に大量の昆布が打ち上げられていて、そのほとんどが腐敗していると聞いたからです。もったいないですよね。これから自然環境が変化すれば、減ってしまうものが注目されていくと思います。でも私は、増えたものや取れるようになったものをどう活かすかを考えたいです。

海藻を加工し飼料にすることで牛のゲップに含まれるメタンガスを削減できるし、生産者の収入アップにもつながる。昆布を起点にした循環をつくりたいんです。すごくおもしろいですよ！

大砂 百恵 (e-Combu)  
廃棄/未利用昆布を活用した循環型社会を目指す「e-Combu」代表。2003年生まれ。米国への留学時に格差の大きさに衝撃を受け、ソーシャルビジネスに興味を持つ。大学ではマーケティングなどを学びながら同社を起業。



## FOREST



### 森 / 北海道雨竜郡

#### 10年くらいでは変化は語れない。 最低でも、数十年単位の分析が必要

40年くらいここで働いている方に話を聴くと、積雪の時期や降り方に変化を感じるそうです。例えば、雪解けが早くなったり、一度に降る量が多くなったり。雨龍研究林では冬に樹木を伐採します。雪がクッションになり、幼木が重機に踏み潰されてしまわないように守ってくれるのです。しかし、近年は雪が積もるのが遅くなり、なかなか冬の伐採作業が始められません。一方で雪解けが早くなり、林道を見て回る時期も早くなるので、管理がしやすくなるとも言えるのですが。

私自身は道北にある北大研究林で働き始めて10年ほどしか経っていないこともあって、気候が変化しているという実感はありません。農作物に比べ樹木は成長に時間を要します。気候変動によって森が変化しているかどうかを語るには、10年では少し短いんです。北海道の森に関して言えば、針葉樹が減っていたり、笹が元気になっていたりというのはデータとして明らかになっているんですが、ただ、研究者としては少なくとも数十年単位でデータを分析しなければと思っています。

小林 真 (北海道大学雨龍研究林)  
北海道大学研究林の中でも最も歴史の長い研究林「雨龍研究林」林長。専門は、樹木生理生態学、土壌生態学。北海道大学で博士号取得後、日本学術振興会(横浜国立大学)、ウメオ大学(スウェーデン)などで研究員を務め、現職。

## ARCHITECTURE

### 建築 / 全国

#### これからあるべき姿のために、 みんなで考えるものづくりがしたい

気候変動の影響で、最近は設備屋さんがとにかく忙しそうです。夏の暑さに対してエアコンのパワーが不十分で交換したり、集中豪雨で壊れてしまった設備を入れ替えたり。あとは技術力の高い大工さんや職人さんが高齢で引退し、施工のクオリティが下がっていますね。そのままお客様に引き渡すわけにはいきませんから最後の手直し調整が大変です。

まだまだ机上の空論で、設計士は設計だけを考え、設備屋さんはリスクを負わないような設備を考え、大工さんは時間に追われ、工期に何とか間に合うように建物を組み立てていくことを考えている。でも本当は、設計士も設備屋さんも、大工さんも、施主さんも一緒になって、美しいデザインに加えて「これからあるべきつくる責任」についても構想段階から考えていきたい。自然素材や再利用素材の循環活用や廃棄物削減、省エネ、課題はたくさんあって、実現にはそれぞれの仕事の枠を超えた心でつながる連携が必要です。そのためには仕事の仕方や構造を変える必要があります。課題が山積みですね。

小倉 寛之 (DRAWERS)  
『つくる責任』を考え、店舗設計やインテリア、プロダクトなどのデザイン、貸別荘運営を行う「DRAWERS」代表。SHIROの店舗、MAISON SHIRO、SHIRO東京オフィスの設計も担当している。インテリアデザインを通して、廃材に新たな価値を生み出すプロダクトブランド「Iwa/ter」の運営も行う。https://water-sup.com/



# GARDEN



## 庭 / 北海道長沼町

### 変化に合わせてどんどんチャレンジ！ 来年は何にする？

長沼でも気候の変化を感じます。冬は雪の量と質が変わりました。降雪量が多い上に湿気を含んだ重い雪の降る日が多いです。MAISON SHIROは除雪が必要なスペースが広いので大変です。雪の降る時期が早まっている気もしますね。落葉する前に大雪が降ったので、葉に積もった雪の重みで枝が折れてしまったんです。これまで見たことのない景色で驚きました。また、冬に限らず通年で湿気が多いことには悩まされましたね。

気温が上昇したことで、庭で育つ植物も変わっていくと思うんです。例えば今までは放っておいても育ったズッキーニですが、風通しを良くしてあげないと蒸れて腐るようになったし、高温で枯れてしまうハーブも増えた。気候変動を嘆いていても仕方がないので2024年はいろいろと実験してみました。例えば、熱帯～亜熱帯地域で栽培されているシカクマメ。SNS上で北海道でも育てているという投稿を見て「もしかしたら、長沼でも育つかも」と思い立ち種を撒いてみたところ、豊作でした。落花生やミョウガも良く育ちましたね。沖縄のイメージが強いウコンにも挑戦してみました。残念ながら2024年はイマイチでした。でも、今年はいける気がしています。

日本だけでなく緯度が近い世界の国々の情報も調べたりして「これならいけるかなあ?」と思った植物がちゃんと育つのはうれしいです。来年は蓮根やレモンにも挑戦してみようと考えています。気候の変化に合わせて、自分たちも変わっていきたくいですよね。毎年、少しずつ。

竹原 陽子

北海道長沼町にあるMAISON SHIROのお庭を担当。[LABO SAVORY]にてハーブティー製造を中心に活動。『食べれる庭』をテーマにしたキッチンガーデンの取り組みを進め、訪れた方達の食と自然の楽しみの提供している。



# TAMANU

## タマヌ / 沖縄県沖縄市

### もっと暑いほうが 本島のタマヌはよく育つけど……

2023年から沖縄本島ではタマヌは不作で、特に2024年は実が小さかったです。ただその原因が気候変動かどうかは現在観察中です。マンゴーが着花しにくくなっているという話なども聞きますが、農作物への気候変動の影響を身近に聞くことはそれほどにはないように思います。

昔から沖縄に住んでいる方は「昔に比べて暑くなった」と言いますね。でも私はそれほど変化を感じていません。新潟生まれで13年前に沖縄に移住してきた私にとっては、夏が少し長くなっている気がする程度です。もともとタマヌは東南アジア、インドなどで育つ植物なので、沖縄本島では暑さが少し足りない。だから、沖縄本島のタマヌだけのことを考えたら温暖化は悪いことではありません。

もちろん良いことばかりではありません。沖縄は一年中暖かく、は

宇佐美 徹 (株式会社すまエコ)

防風林や街路樹として沖縄県内に多くあるテリハゴク(照葉木)の種から取れる「タマヌオイル」を使ったスキンケア製品の開発を主とする「株式会社すまエコ」代表。関東で再生エネルギー関係の仕事をしてきたが、沖縄の豊かな自然に魅せられ、沖縄に移住して同社を起業。

っきりと四季を感じない地域です。最近では内地でも、春や秋が短くなってきていると聞きます。日本の気候が沖縄化していると言えるのかもしれません。これは沖縄で農業に携わる人々からすると大きな問題かもしれません。沖縄は土地が狭いので、内地との差別化を図るため、マンゴーやパイナップルなど沖縄らしい植物を育てることにこだわってきました。温暖化が進み、より広い農地が確保できる九州などで路地でも育てられるようになったら、九州産マンゴーなどもっと市場に出回るようになってしまう。これはちょっと困ってしまいますよね。



タマヌクレンジングバーム

# FLOWER



## 花 / 全国

### 消費者と生産者の花への意識を変えていく

最近の暑さの影響で、熊本県のトルコキキョウは通常なら濃いピンクの花びらの色が薄くなったり、育ちにくくなっていたりしますね。花の生産者は暑さをしのぐためにいろんな対策が必要になっています。でももちろん、種類によっては、今より暖かい環境のほうが適している花もありますし、実際に1ヶ月近く早く咲き始める花もあるんです。

ただ、問題は花農家の人手不足。多くの農家はお年寄り、次世代の担い手はなかなかいません。だから、花が今よりも多く咲いても、収穫しきれない。生産者の貴重な売上の機会損失でもったいないと思います。

私たちの活動目的である流通過程においてまだ綺麗なうちに廃棄されてしまうロスフラワー®の正当な価値をつけ、ロスフラワー®がなくなるくらい需要を増やすこと、日常的に花を買う・見る文化を育てること、農業を使わないオーガニックフラワーを広めること。これらが増えれば、地球にも人にも嬉しい連鎖が生まれ、消費者と生産者の意識が変わると信じています。

河島 春佳 (株式会社RIN)

ロスフラワー®を用いた店舗デザインや、装花装飾を行う「株式会社RIN」代表取締役。生花店での短期アルバイト時に、廃棄になる花の多さにショックを受け、フラワーサイクリスト®としての活動を始める。パリへの花留学後に同社を起業。

# HOLY BASIL



## 畑 / 広島県東広島市

### 自然に抗う事なく、 私たちが変化し続ける

気候変動の影響はかなり大きいと感じています。特に秋冬野菜を育てるのにとても苦労しているんです。秋冬野菜の種や苗は夏に植えるのですが、発芽の適温を遥かに超えて温度が高いから干からびてしまったり、芽が出なかったり、枯れてしまう。適温に保つためにネットで遮光したり、水をまいたり工夫する

日向俊介・実香 (ひなた農園)

農業を使わず無化学肥料で、誰かが笑顔になれる野菜づくりに取り組むご夫婦。未来のために美味しく食べて体にやさしい食べ物と、何十年、何百年と続く土・水・空気をつくりたい。子どもたちに自然と触れ合い豊かに育ってほしい。という想いで常に自然と向き合っています。

など、とにかく手間がかかります。気候変動も毎年変化していているので、自然に抗うことをなるべく避け、それに合わせて私たちが変化していかなくてはいけない。そういう意味で毎年1年生であり、育ちやすい野菜や暑さに強いハーブを増やしたり、毎年新たな事に挑戦しています。

そしてこの変化と大変さを、畑や野菜を通して人に感じてもらう事によって、自然の尊さや物の大切さを1人でも多くの人に伝えたいと思っています。

# FOREST

## 森 / 北海道愛別町

### 色々なことをやっていたら、 変化に負けない

農業と林業と狩猟に関わっていますが、変化が大きいと感じるのは農業です。特に栽培品種への影響が大きいと感じています。数年前まで北海道ではまったく育たなかった「さつまもも」ですが、2024年は大豊作でした。今まで育てていた品種よりも、より南で育ちやすい品種に順次入れ替えています。ビニールハウスなどに設備投資して温度管理をすれば、今まで通りの品種を育てることが可能ですが、私はいまだ環境に適したことをやっていきたいですね。

森の環境も色々変化していると思います。鹿や熊などの生息域の変化や個体数の増加により、農業・林業被害は増えています。育つ野菜が変わるように、木も変わるといいます。元々あった木も環境に合わせて変化していくと思われ、北海道の南部が最北限だった杉やブナが、北海道の北部にある私たちの森で育つ時も近いのではないかなあ、と感じることもあります。

ひとつのものに頼っているとそれがダメになるだけで絶望的ですが、私たちは多様な野菜やハーブを育てていますし、自然に向き合うさまざまな仕事をしています。色々なことを同時進行していると変化に強いですね。

福山 寛人 (福山農林合同会社)

「人・社会・環境に優しい森林業の経営構築」を目指す「福山農林合同会社」代表社員。森と市民の橋渡し、森林環境の保全・再生に重点をおいた森林づくりを実践する「特定非営利活動法人もりいく団」団長、林業士の協同組合「北の山子団協同組合」代表理事も務める。



ヨモギオイルイン  
ウォーター 2024



ホーリーバジル  
オイルインウォーター 2024

## 廃棄物ゼロを目指す 15年目の宣言から1年 すでに起きている変化と、 見据える未来

2024年の始まりに、SHIROが表明した、  
本質的な循環のために廃棄物ゼロを目指すという15年目の宣言。

さまざまな工夫を凝らしたこの1年間を経て、  
どんな変化が生まれたのでしょうか。  
そして、どんなステップを刻んでいくのでしょうか。

Photographs: SHIN SASAKI Text: SHINTARO KUZUHARA



### 46.6%

ZERO COLLECTION FRAGRANCEは、国際化粧品香料協会による香料の使用可能量変更などに伴う製品リニューアルや、工場で余っていた香料2,222.6kgのうち、1036.2kgを使用。2024年の製造で生まれた新たな61.95kgの香料も、今後活用する予定です。

### 65.6%

使われずに残っていた854,286本の容器のうち、560,703本をZERO COLLECTION FRAGRANCEに使用し、廃棄量を65.6%削減。練り香水の容器をハンドクリームへ、ハンドスプレーの容器をデフューザーへ。形はそのままに、用途を変えて製品化しました。

### 10,000本

SHIRO リユースプロジェクトで10,000本の使用済みガラス容器を回収し、そのうち2,400本を渋谷PARCOで開催した「SHIRO with PASSTO」にて、リユースボトルとして販売しました。

### 62.4%

現店舗と同区画でリニューアルした「SHIRO ルミネエスト新宿店」（面積102.70㎡）。什器をつくる際に使用したバージン材は5.16㎡。もともと使用していた什器を廃棄せずに表層替えを施すなど、62.4%の材料を再活用し、バージン材の使用を削減しました。

## 数字で見る 15年目の宣言前後

### 70%

捨てないお店づくりを目指し、什器や壁面、収納部分などを再活用しています。7店舗<sup>※1</sup>から排出する廃棄物量<sup>※2</sup>12,277.37kgの予測量に対し、実際に排出したのは3,670kg。8,607.37kgの廃棄物排出を抑えることができました。

### 11.2日間

お店をリニューアルする時、新しく作り直そうとすると約1ヶ月間お店をクローズすることも。5店舗<sup>※3</sup>の平均工事期間は11.2日間。クローズ期間が短いと、ポップアップを行わずに済むため新しい什器をつくる必要がなくなります。

### 97%

MAISON SHIROを建設するために使用した136.80㎡の木材のうち、97.01%が北海道産です。それら北海道産木材の89.44%は、森の持続性に配慮しながら活動する木こりたちが管理する森で伐採されました。

### 約30%

MAISON SHIROで使用した北海道産木材の伐採・輸送・製材による二酸化炭素排出量は、北米材の原木を使用した場合に比べ約14%、さらに、欧州材と比べると約30%削減することになります。<sup>※4</sup>

※1 対象店舗：ルクアイーレ店、ルミネ池袋店、渋谷 PARCO POP UP STORE (3月)、銀座三越店、岩田屋店、ルミネエスト新宿店、渋谷 PARCO POP UP STORE (11月)

※2 C工事、内装工事範囲での廃棄物量

※3 ルクアイーレ店、ルミネ池袋店、銀座三越店、岩田屋店、ルミネエスト新宿店

※4 排出原単位は日本建築学会技術報告集「建築用木材のLCAデータベースの構築」(2012年)の数値を援用

## “つくる意味があるもの”をつくる

2024年は、SHIROにとってまさしく「ゼロ」の年でした。「倉庫にたくさん眠っている、空容器や香料をもっと使えるんじゃない？」きっかけは、今井が社内のチャットに投げかけた、ひとつのメッセージ。そこから15年目の宣言、ZERO COLLECTION FRAGRANCE、MAISON SHIRO、新たなお店づくり、SHIRO リユースプロジェクト、リユースファッションショーなど、すべてが「廃棄物ゼロを目指す」という目的地向かっています。

SHIROで働く私たちの意識も変わりました。まずはつくり方の変化です。使えなくなった資材や香料を調べ、次の製品づくりに活かす。お取引先様と話す時に「何か余っているものはありますか？」と尋ねてみる。ゼロを念頭に置きながら、製品の素材を考えるようになりました。また、つくった後のイメージを具体的に持つようにもなりました。この容器はリユースできるのか、製品が余ってしまった時にどうしたら有効活用できるか、容器も不要になったら土に戻っていくような工夫ができないか。畑や森、産業廃棄物を処理する施設、工場、それぞれの現場へと足を運び、学び、考えるようになりました。

2024年を走り抜け、今、つくる意味があるものをつくりたいと強く思います。廃棄物ゼロへと向かいつつ、製品の品質や美しさも一緒に追求する。すでにさまざまなアイデアが浮かんでいます。ぜひ楽しみにしてください。

## 「すでにそこにあるもの」から生み出す

廃棄物ゼロを掲げてさまざまな取り組みをする中でわかってきたのは「すでにそこにあるもの」の可能性でした。目的に適さないからと捨てられてきた素材、森の生態系が生み出す植物、倉庫に使われずに眠っている資材。すでにそこにあるものにクリエイティビティを注げば、お客様の心に届くのです。

例えば、気候変動で育たなくなる植物や取れなくなる魚がいる一方で、育ちやすくなる植物や取りやすくなる魚もいます。人類にとって致命的な変化が訪れないように気候変動を食い止めるアクションと同じくらい、変化した環境でどうやってよりよい社会を築いていくかも大事なはず。「すでにそこにあるもの」から何かを生み出してきたSHIROが得意とするのは、後者です。環境が変化するからこそ、新しい「すでにそこにあるもの」が生まれているはず。旅をして、人と出会い、ものをつくり、社会を良くしていく。こうした姿勢に、さらに力を入れていきたいと考えています。

今回のレポートをまとめながら、たくさんの仲間たちに囲まれていることを実感しました。来年のレポートにはきっともっとたくさんの仲間たちが登場するでしょう。SHIROはコスメティックブランドの枠を超え、さまざまな領域にまたがり、社会の循環を促す存在を「みんな」で目指します。100年後を生きる世代にどんなバトンを渡せるのか、みんなで一緒に考えていけたら嬉しいです。



SHIROのものづくりは、国内外の生産者さんと出会い、厳しい自然が育んだ植物の花や枝葉、実などから誕生します。SHIROのアイテムは一次産業で生産者さんが大切に育て、収穫したもので作り。2025年も、どんな新しい製品が生まれるか楽しみにしててください。

## SHOP LIST

### 北海道

SHIRO 砂川本店	北海道砂川市豊沼町54-1 みんなの工場内
SHIRO 札幌ステラブレイス店	北海道札幌市中央区北5条西2-5 JRタワー 札幌ステラブレイス センター B1

### 関東

SHIRO 表参道本店	東京都渋谷区神宮前5-2-7 2F
SHIRO BEAUTY 表参道本店	東京都渋谷区神宮前5-2-7 B1F
SHIRO 自由が丘店	東京都目黒区自由が丘2-9-14 アンソルティ1F・B1F
SHIRO ルミネエスト新宿店	東京都新宿区新宿3-38-1 ルミネエスト新宿 B1
SHIRO 伊勢丹新宿店	東京都新宿区新宿3-14-1 伊勢丹新宿店本館1階=化粧品
SHIRO 丸ビル店	東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル B1F
SHIRO 銀座三越店	東京都中央区銀座4-6-16 銀座三越 地下1階 ギンザコスメワールド
SHIRO +Q (プラスク) ビューティー	東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア
渋谷スクランブルスクエア店	ショップ&レストラン6階 SHIRO +Q (プラスク) ビューティー店
SHIRO 渋谷ヒカリエ ShinQs 店	東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ ShinQs 1F
SHIRO ルミネ池袋店	東京都豊島区西池袋1-11-1 ルミネ池袋 B1
SHIRO 玉川高島屋 S・C 店	東京都世田谷区玉川3-17-1 玉川高島屋 S・C 南館 1F
SHIRO ルミネ北千住店	東京都足立区千住旭町42-2 ルミネ北千住 3F
SHIRO ルミネ横浜店	神奈川県横浜西区高島2-16-1 ルミネ横浜 1F
SHIRO ルミネ大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630番地 ルミネ大宮店 ルミネ2 3F
SHIRO/TIAT DUTY FREE BEAUTY	東京都大田区羽田空港3-4-2 第2ターミナル3階 国際線出国エリア内

### 中部

SHIRO タカシマヤ ゲートタワーモール店	愛知県名古屋市市中村区名駅1-1-3 タカシマヤ ゲートタワーモール 6F
SHIRO ジェイアール名古屋タカシマヤ店	愛知県名古屋市市中村区名駅1-1-4 ジェイアール名古屋タカシマヤ 3F 化粧品

### 中国

SHIRO ミナモア広島店*	広島県広島市南区松原町2番37号 ミナモア広島 2F
----------------	----------------------------

### 近畿

SHIRO 大丸京都店	京都府京都市下京区四條通高倉西入立売西町79 大丸京都店 1F
SHIRO ルクア イーレ店	大阪府大阪市北区梅田3-1-3 ルクア イーレ 2F
SHIRO 阪急うめだ店	大阪府大阪市北区角田町8-7 阪急うめだ本店 3F HANKYU BEAUTY
SHIRO 大丸心斎橋店	大阪府大阪市中央区心斎橋筋1-7-1 大丸心斎橋店本館 1F
SHIRO 大阪タカシマヤ店	大阪府大阪市中央区難波5-1-5 高島屋 大阪店 1階化粧品売場
SHIRO 大丸神戸店	兵庫県神戸市中央区明石町40番地 大丸神戸店 本館 1F 化粧品

### 九州

SHIRO 岩田屋店	福岡県福岡市中央区天神2-5-35 岩田屋本店 本館1階=化粧品
SHIRO 博多阪急店	福岡県福岡市博多区博多駅中央街1-1 博多阪急 1F 化粧品

### Taiwan

SHIRO 新光三越台北信義新天地A11店	台湾台北市信義區松壽路11號1樓
-----------------------	------------------

### London

SHIRO Monmouth Street	Ground Floor, 63 Monmouth Street, London, WC2H 9DG, UK
-----------------------	--

\* 2025年3月24日(月)オープン予定

# SHIRO REPORT 2024

発行：株式会社シロ  
お問い合わせ  
TEL: 0120-275-606  
MAIL: info@shiro-shiro.jp

編集長：今井浩恵  
Editor in Chief: Hiroe Imai

クリエイティブ・ディレクター：佐々木信 (3KG)  
Creative Director: Shin Sasaki

エディター：葛原信太郎  
Editor: Shintaro Kuzuhara

表紙写真：澤圭太  
Cover Photograph: Keita Sawa

発行人：福永敬弘  
Publisher: Takahiro Fukunaga

プロデューサー：伊藤亜由美 (CREATIVE OFFICE CUE)  
Producer: Ayumi Ito

PR・校正：小林穂乃香  
Public Relations: Honoka Kobayashi

PR・校正：河合裕子  
Public Relations: Yuko Kawai

Thanks to:  
有井淳生 / 入江可子 / 原田祐馬 / 山川咲 / 成尾和見 / 山下郁子 / 宮原圭史 / 泉秀一 / 井上隆太郎 / 大砂百恵 / 小林真 / 小倉寛之 / 竹原陽子 / 宇佐美徹 / 河島春佳 / 福山寛人 / 日向俊介 / 日向実香 / 高山泉 / 猪尾晃人 / 武隈洋輔 / 北崎千鶴 (敬称略・順不同)

Copyright © SHIRO Co., Ltd.  
All Rights Reserved.  
本誌掲載の写真、イラストレーション、記事、ロゴの無断転載および複写を禁じます

shiro-shiro.jp  
@ shiro\_japan  
@ shiro\_sunagawa  
@ maisonshiro\_

